JR 小樽駅本屋およびプラットホーム

鉄道を使って小樽にやって来ると、小樽駅から出てすぐ目の前に港が見えます。小樽駅から伸びている中央通りは海に向かって下り坂で、冬になると駅舎の前から強い西風に煽られて防波堤沿いに波が打ち寄せているのが見えます。20 世紀初めには、小樽駅に降り立つと、数十隻の帆前船や汽船が港に停泊し、艀が岸まで荷物や乗客を運んでいるのが見えていました。

新しい接続
小樽駅は 1903 年に開業し、翌年には北海道最南端の町である函館までの路線が開通しました。小樽駅が建設される前までは南小樽駅がこの町の主要駅であり、小樽港北側にある石炭積み下ろし用ドックとつながっていました。

成長を遂げた町の近代的な駅
現在の駅舎は鉄筋コンクリート造りで、1934 年に完成しました。左右対称に配置された入り口ホールのアールデコ風デザインは当時の大きな駅舎でよく使われていました。

小樽駅の入り口正面にある真鍮製の鐘を鳴らし、列車が入ってくるのを知らせていました。この慣例は 1965 年ごろまで続きました。現在も小樽駅の正面には鐘があり、人気の写真撮影スポットとなっています。誰でもこの鐘を鳴らすことができます。

入り口ホールを照らす
駅舎正面にある背の高い 6 つの窓から差し込む自然光と、地元のガラスメーカーである北一硝子により寄贈された 333 個のガラス製ランタンが相まって、入り口ホールは光で溢れています。現在は、これらランタンには電力が供給されていますが、北一硝子が 1901 年に作製を始めた初代の手吹きガラスのオイルランプに似せてあります。

4 番ホームの思い出
4 番ホームは 1934 年に行われた改造や、エスカレーターや追加の照明などの最近の増設を除けば、1903 年当時の姿とほとんど変わっていません。1903 年当時プラットホームに取り付けられていた屋根組や支柱に使用されていた元の鉄骨梁は、海外から輸入されたものでした。4 番ホームにある支柱の 1 つには、「BV & Co Ltd」の社名と 1902 年という日付が刻まれています。これは、イギリスのヨークシャーにあるボルコウ・ヴォーン株式会社から調達した原物です。ボルコウ・ヴォーン株式会社は、当時世界最大の鉄鋼メーカーの 1 つでした。

4 番ホームの北の端に人気俳優石原裕次郎（1934 年–1987 年）が長期テレビドラマの撮影のために小樽を訪れたのを記念して、額装された等身大パネルが置かれています。石原裕次郎は神戸

で生まれましたが、幼少期の数年を小樽で過ごし、その後、頻繁に小樽を訪れていました。石原裕次郎は、1978 年に撮影されたこのパネルの中で 4 番ホームに立っており、この 4 番ホームは、地元では「裕次郎ホーム」として知られています。